

裁判員制度に反対する集会在東京都内で



来年5月に実施が迫る裁判員制度に反対する集会在11月22日、東京都内で開かれた。主催は「裁判員制度はいらない! 大運動」。640人(主催者発表)が集まり、同制度の問題点を論じた。

交通ジャーナリストの今井亮一さんが「この8月にはかつて賛成していた社民・共産党が実施延期を求め、民主党も同調。推進派がぐらついてきている」と指摘。続いて高山俊吉さん(呼びかけ人・弁護士)の司会で、漫画家の蛭子能収さん、元小学校教員の森本孝子さん、地域ラジオ放送局パーソナリティの吉沼紀子さん、都内町会会長の藤原隆男さんによるシンポジウムが行なわれた。

蛭子さんは「賭けマージャン」で警察の取調べを受け、市民からは石を投げられた体験がある。「芸能人は、怒ってキレる市民が怖い。そんな人が裁判員になって人を裁くことは恐ろしい」と語った。

「石原ババア発言」の原告として裁判を闘う森本さんは、教育基本法改悪以降、教育現場にかけられている攻撃の数々を紹介した。「愛国心教育で子どもたちを戦争に駆り立て、仕事がない若者たちは軍隊へ入隊させ、それ以外の人々は、裁判員制度で戦時司法へ強制動員。殺人に慣らされる」と厳しく批判した。 横山隆英・フォトライター